

## 働く女性専門外来の診察室で見える、働く女性の現状

星野 寛美

独立行政法人労働者健康安全機構関東労災病院産婦人科

(2020年3月31日受付)

**要旨：**女性への労働力としての期待が高まる中、働く女性の健康管理は、社会的にも大きな意義がある。働く女性の中には、健康に課題がありながら、職場での健康管理部門に相談できないという女性もいる。職場外での、健康相談の場として、「女性医師による働く女性専門外来」があり、仕事のストレス等により体調不良を来した女性や、体調不良が仕事に影響している女性が受診している。疾患は多岐にわたるが、多いものとしては、不安障害、気分障害、更年期症候群、月経前症候群、めまいがあった。疾患の訴えのみならず、各種ハラスメントも含め、職場対応についての訴えもある。事例を含め、提示した。職域での、女性特有の疾患理解が進むこと、各種ハラスメント等への対応が適切に行われることが期待される。

(日職災医誌, 68:337-341, 2020)

### キーワード

働く女性、ストレス、健康経営

### はじめに

国内では、少子高齢化が進む中、女性に対して、労働力としての期待が高くなっている。さまざまな政策が出され、各事業所等でも熱心な取り組みがあるが、その中であって、女性一人ひとりの受け止めは多様であり、社会の期待を重圧と感じる女性、あるいは社会の期待に沿おうとして過労などから体調を崩す女性もいる。

独立行政法人労働者健康安全機構関東労災病院では、平成13年10月より、「女性医師による働く女性専門外来」を開設し、女性を対象として診療に当たっている。その診察室には、仕事上の各種ストレスが起因となって体調を崩した、と訴える女性、あるいは体調不良により仕事に影響が出ている、と訴える女性など、仕事に関連した相談が多く寄せられている。職場に相談しにくい内容を訴えてくる女性もあり、その現場状況を報告することにより、各職域で健康経営に取り組んでいる方々の参考になれば嬉しく思う。

### 「働く女性専門外来」の取り組み

当外来は、一般の外来とは異なり、診療科を限定することなく、総合的な診療を行い、また、問診および説明に十分に時間をかけるようにしている。女性医師が担当し、プライバシーに配慮した診察室において、受診者が話しやすい環境を整えている。開設以来、令和元年6月

末までに、2,544名(新患総数、重複なし)の方々の診療に当たった。

### 診察室で語られること

当外来は、就労女性だけが受診している訳ではないが、受診者は、職域では話せないことを、当外来の診察室で語り、自身の体調不良発症の原因あるいは誘因として、職場ストレスがあると訴え、職場で自分の意向を受け止めてもらえないと切々と語ることも多い。

平成27年1月から令和元年6月までに、初めて当外来を受診した189名の方について集計した。概略は以下のとおりであった。

年齢は、15歳から83歳におよび、平均は44.7歳であった(図1)。疾患としては、婦人科疾患が多く、次いで、心療内科あるいは精神科の疾患が多かった(図2)。

受診者の内、72名(38.1%)の方は、仕事の各種ストレスが原因で、自分の体調不良は生じていると考えていた(図3)。仕事のストレスの内容として具体的に挙げられている項目としては、「人間関係」が最も多く14名(19.4%)で、次いで「仕事内容」が8名(11.1%)だった(図4)。他に、パワハラ、セクハラ、モラハラを挙げている方もあった。

また、103名(54.5%)の方は、受診した体調の不良が、仕事に支障を来している、と感じていた。

他に、有機溶剤や鉛の暴露経験のある女性から、今後

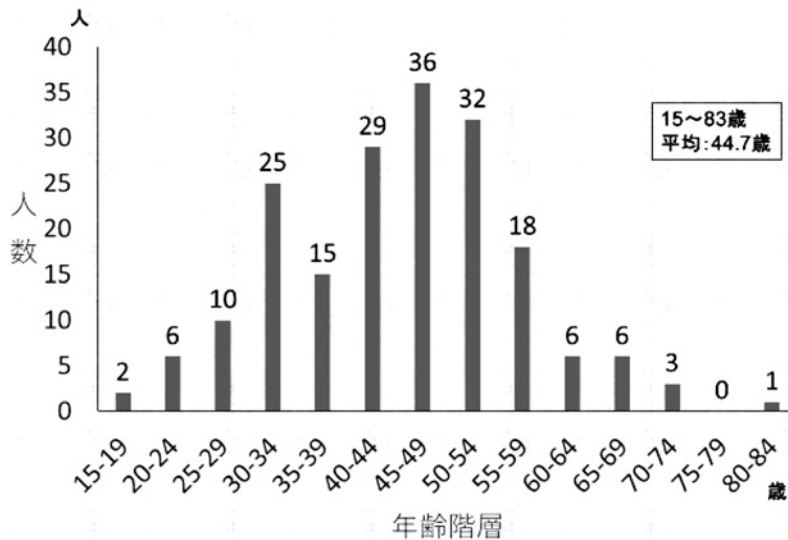


図1 年齢分布 (2015年1月～2019年6月 初診 189名)

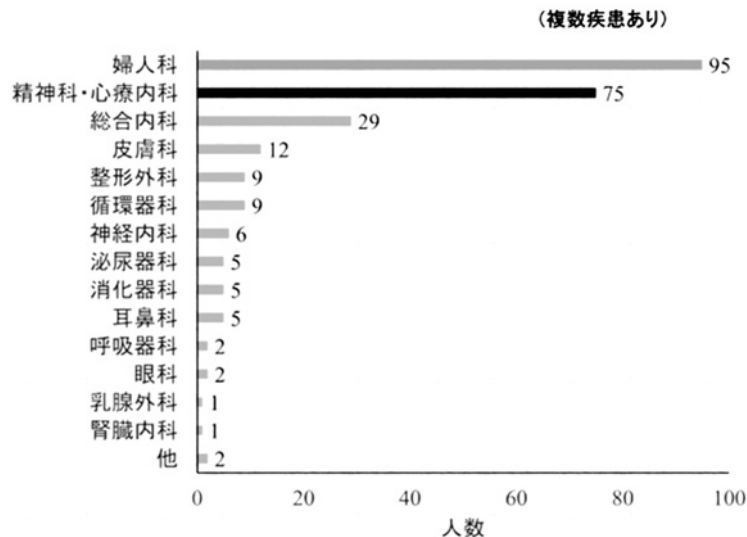


図2 疾患内訳 (2015年1月～2019年6月 初診 189名)

の妊娠についての相談もあり、職場環境の管理が不十分な事業所もあるものと考えられる。

なお、産業医の先生方から、当外来の受診をご本人にご提案頂き、産業医の先生からの紹介状をお持ちになって受診する方もある。そのような場合には、産業医の先生と連携しながら、体調管理に当たっている。

#### 仕事との関連のある疾患の内訳

「仕事のストレスが要因で発症、増悪した」と訴える方の上位5つは、①不安障害②更年期症候群③気分障害(うつ病, うつ状態)④月経前症候群⑤適応障害であった。「体調不良のために仕事に支障が出ている」と訴える方の上位5つは、①不安障害②更年期症候群③月経前症候群④気分障害⑤めまいであった。

また、「仕事のストレスが要因で発症、増悪した疾患や

症状のために、仕事に影響が出ている」という負の循環を生じている方の上位4つは①不安障害②更年期症候群③月経前症候群④気分障害であった。

総じて、不安障害、気分障害、更年期症候群、月経前症候群、めまいについて、適切な予防あるいは治療をおこなうことが、就労女性の健康管理のために有用であると考えられる。

なお、職域では、メンタルヘルス対応のために、ストレスチェック制度が実施されているが、受診者からは、ストレスチェックシートに実際の状態を記入して提出しても、産業医との面接の時間を取られるだけで、職域の環境整備にはつながらないので、産業医面接が不要となる範囲で、記入するようにしている、という実情も聞かれた。適切な対応につなげるための、職域での健康管理のあり方も検討して頂くことが必要であると考えられ

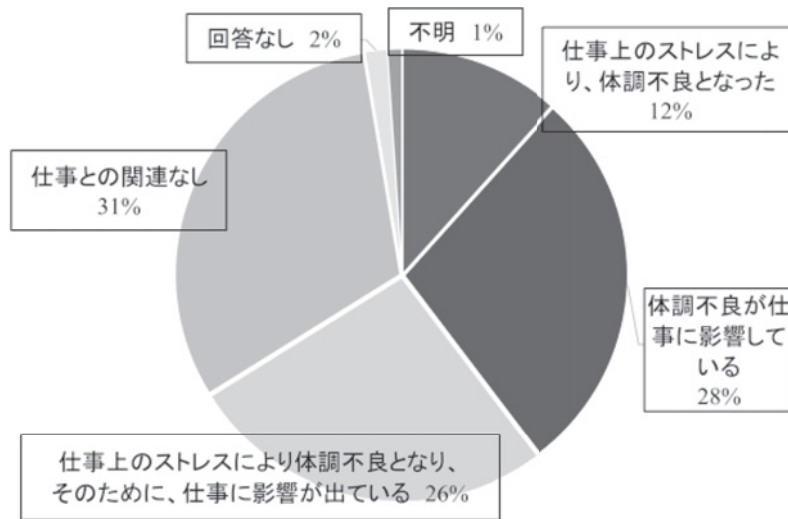


図3 症状と仕事との関連 (2015年1月～2019年6月 初診 189名)

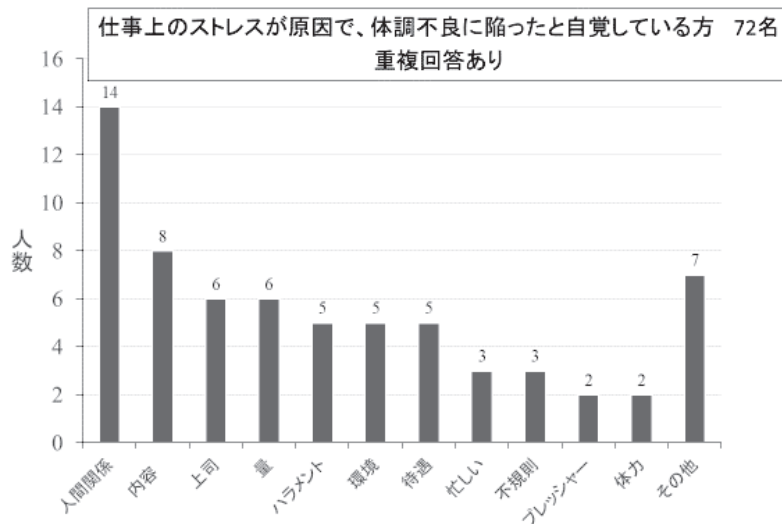


図4 仕事上のストレス内容

る。

### 職域での理解を進めて頂きたいこと

受診者からは、月経に関連した不調や、更年期の症状、あるいは冷えなど、女性特有の症状を、職場の同僚や上司が理解してくれないことが語られることも多い。月経前症候群（PMS）を男性上司に相談することができず、精神症状を増悪させ、休職に至った方もある。また、月経痛や更年期の症状は、個人差が大きいので、上司が女性である場合でも、上司の女性自身が、月経痛や更年期症状に悩まされた経験がないために、各種症状について上司に理解してもらえず、対応に苦慮している女性労働者も多いことを知って頂きたい。

### 事例提示

ご理解頂きたい事例を3つ示す。個人が特定されないように、概要のみ示す。

#### 事例1 職場で相談ができず、月経前症候群が悪化した女性

20代半ば 東京都内在住 会社員 システムエンジニア 就職して3年目。自分の課は20人中、女性1人。

主訴は、月経前症候群で、症状としては、仕事で半年前からパワハラを受けるようになり、月経前の気分の落ち込みなどがひどくなった、ということであった。

パワハラの内容は、「仕事を与えてもらえない」「ミーティングの時間を教えてもらえない」などであった。「上司に相談しても改善されず、とにかく耐えてきたが、生

理前以外にも不安感が強くなり、仕事が手につかない状態になってしまった」「先月は、3日連続して、仕事を休んでしまった」「仕事のことが頭から離れず、眠れない」という訴えであった。

精神症状が強いため、院内の精神科を受診するよう案内し、職場への対応も必要と考えられたため、院外の労働相談の窓口について、利用できるよう案内した。

月経前の時期のさまざまな症状は、生殖年齢の約70～80%が経験していると言われ、社会生活に困難を伴う中等症以上の月経前症候群の頻度は5.4%と報告されている<sup>1)</sup>。

女性が男性職員の多い事業所に就職した場合、就職直後の研修期間は同期の女性と過ごすことができるが、研修終了後、配属先において、男性職員の中で女性は自分1人だけ、という状態になることがある。そのような時に、何らかの不調が出た時点でサポートを得られるシステムがあればいいのだが、適切なサポートがない場合、女性特有の不調が増悪し、欠勤、退職に至る場合もある。

#### 事例2 セクシュアルハラスメントによりPTSDとなった女性

40代半ば 神奈川県内在住 非常勤職員

産業医からの紹介状を持参して来院した。紹介状の内容は、下記のようなものであった。

・職場の上司からセクハラ行為があったため、一時休務

- ・体調不良が続いている
- ・胸の締め付けられる感じ、朝、起きづらいなど
- ・フラッシュバックもあるとのこと
- ・加害者については処分の方向で進んでいる
- ・医療的対応が必要と考えられたので、紹介する

本人からは、夕刻になるとフラッシュバックにより、辛いという訴えがあった。被害直後、夫に相談し、家族の理解も得ながら、職場へ報告したこと、また、同僚が同じ被害に遭っていたにも関わらず、報告しなかったために、自分も被害に遭うことになったことを繰り返し訴えていた。自分のようなケースが繰り返されることのないように、多くの働く女性に対して、自分の事例を伝えてほしい、という意向も示している。

引き続き、通院する中で、加害者に対する職場の対応が不十分であることを訴えている。

院外の精神科および労働相談の窓口を案内し、それらと併行して、現在も継続して通院している。

#### 事例3 パワーハラスメントを受け、希死念慮を訴えた女性

50代半ば 派遣社員 フルタイム勤務

症状等は、下記のようなものであった。

- ・上司からの、言葉の暴力によるパワハラがひどい
- ・緑内障を発症していたが、他医でストレスが原因と言われた

・緑内障に対し、大学病院で治療を受けているが、このまま仕事を続けていると、失明するのではないかと恐れ、不安である

・パワハラについて、派遣会社に報告し、対応を依頼している

・職場に、退職を希望したのだが、退職させてくれない

・気分的にも落ちていて、ふと駅のホームで電車に飛び込みたい気持ちになることがあるが、趣味の語学と家族（高齢の親）のおかげで、それは行動化せずに済んでいる

・体を壊さないうちに仕事を辞めたいので、そのための診断書の発行をしてほしい

本人から、状況を詳細に聞き取り、職場ストレスが起因となって体調不良となっていることを確認し、診断書を発行した。後日、無事、退職でき、症状が軽快した旨の報告があった。

#### おわりに

中間管理職の疾患理解の不足については、既に報告されている通りであり<sup>2)</sup>、職域で、女性特有の疾患についての理解が進めば、女性は働きやすくなるものと考えられる。

ヘルスリテラシーを高めることの必要性および有用性は周知のとおりであるが、女性の健康のための、研修用資料(平成30年度 厚生労働省委託 女性就業支援全国展開事業「女性就業支援バックアップナビ」パワーポイント スライド73枚：一般財団法人女性労働協会 <https://joseishugyo.mhlw.go.jp/program/program30.html>)があり、無料でダウンロード可能であるので、有効利用して頂きたい。

また、事例2や3のように、ハラスメント対応がまだ不十分な職場もあり、各職場での適正な取り組みが広がることを期待する。

本稿は、第67回日本職業・災害医学会学術大会(令和元年(2019年)11月9日～10日)シンポジウム11「働く女性の健康問題」によるものである。

[COI開示] 本論文に関して開示すべきCOI状態はない

#### 文献

- 1) 宮川理華子：月経前症候群・月経前深い気分障害、女性の健康包括的支援のための診療ガイドブック、東京大学医学部附属病院 女性診療科・産科。2019, pp 92—96.
- 2) 宮内文久, 大角尚子, 香川秀之, 他：女性特有の疾患に対する男性中間管理職と女性中間管理職の認識の差。日本職業・災害医学会誌 65 (6) : 350—357, 2017.

別刷請求先 〒211-8510 川崎市中原区木月住吉町1-1  
関東労災病院産婦人科  
星野 寛美

**Reprint request:**

Hiromi Hoshino

Department of Obstetrics and Gynecology, Kanto Rosai Hospital, 1-1, Kizukisumiyoshicho, Nakahara-ku, Kawasaki, Kanagawa, 211-8510, Japan

## **The Current Condition of Female Workers -Report from the Room of Outpatient Ward for Female Workers-**

Hiromi Hoshino

Department of Obstetrics and Gynecology, Kanto Rosai Hospital

**【What is “Outpatient ward for female workers”?】:**

To promote health of female workers, “Outpatient ward for female workers” was set up in October 2001 at the Kanto Rosai Hospital. The ward differs from usual outpatient ward for general medication, sufficient time for the treatment, and appropriate room for the patient’s privacy. 2,544 female patients used this ward until June 2019. The main diseases were gynecological, psychosomatic, and psychiatric disorders.

This report of the ward will contribute to the health management in the working field.

**【What were their complaints?】:**

The patients complained about many conditions which they were not able to tell in their working fields. They told us about their illness, what occurred or made worse for stressful condition at work.

189 patients who used the ward since January 2015 to June 2019 were analyzed. The number of patients who recognized her illness occurred or made worse by some stress in work was 72 (38.1%). Work stresses were mainly personal relationship (14 patients, 19.4%), secondly contents of the work (8 patients, 11.1%). Some patients complained harassment of power, sexuality, and morality.

103 patients (54.5%) complained some trouble in the work for their illness.

Other complaints were the anxiety about explosion of organic solvents or lead.

Some patients brought letters from the doctors who managed their health in the working fields. Then we treated the patients with the doctors.

**【What we wish the doctors and health staffs in working fields】:**

Many patients complained the condition of female health problems including illness for menstruation and menopause which many workers were not aware of. A patient complained about premenstrual syndrome. She was not able to tell her illness to her manager, then the illness got worse, and she had to quit her job.

Having better understanding of female disease will make a better condition for women.

(JJOMT, 68: 337—341, 2020)

**—Key words—**

female workers, stress, health management